

選ぶ力・考える力

私達は毎日、自分で選ぶ「自己選択」と自分の意思で決定する「自己決定」を繰り返しています。その回数はなんと！1日に35000回とも言われています。

日々の積み重ねは、順序だてる力（論理的思考の構築）や工夫する力（問題解決能力）につながっています。例えばこんなシーンを考える時…

- ・寒暖差があるから脱ぎやすい服装にしようかな。
- ・この格好だったら少し雨にぬれても大丈夫かな？
- ・遠足に行くから動きやすく歩きやすい服装にしよう！

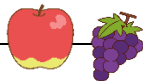
きっと頭の中でイメージして、より自分にとって良い選択になるものを考えていると思います。

こうした日々の繰り返しによってさらに思考が細かく深くなり、「この服は雨に濡れると肌にくっつくから次からはやめておこう」「遠足の時には前日の天気も確認しておいた方がいいな」と、起きたことの結果を受け入れて次に活かそうと改善し、自分の基準を作っていきます。

「選ぶ力」は「考える力」に直結し、大切な経験となります。

私達職員が乳幼児期の子ども達にどんなことを意識して「選ぶ」ことを援助しているのか？

実際に園で取り入れている声掛けの中から2つご紹介します。



★【選択肢は2つ・・・又は3つ】

子どもに「AとBとCとDから選んでね」と初めからたくさんの選択肢があると、何を言われているか分からなくなったり、決めることが出来なくなってしまいます。

「ぶどうとリンゴどっち食べる？」「今日はどっちのズボンをはく？」など2つに絞ると、選択しやすくなります。2つしか選択肢がなくても「自分で決めた」ということが嬉しいですし、満足感があります。

★【やることを前提に選択肢を作る】

選択肢にもポイントがあります。

着替えをする時に「着るか、着ないか」の2つの選択肢ではなく、「どうやって着替えるか」「どっちに着替えるか」の選択肢を設けます。

「お母さんが着替えるのを手伝う？自分で着る？」もしくは「赤いシャツにする？青いシャツにする？」などです。

このほか、私達の法人ではランチの『ビュッフェスタイル』や『選択制保育』等を取り入れています。子どもにとって、「自分で決める」ことはとても嬉しいことです。

食事の時間だけを切り取っても、自分でよそうことが出来た、というだけで苦手な食材にチャレンジしようとしたり、食べ切ろうとする姿が見受けられるようになります。

幼い頃から自己選択や自己決定の機会を意識的に持たせることで、子どもは自分自身を知ったり、「できた！」という達成感を得ることや自信につながります。

こうした経験を積み重ねていくことで、今の自分を認められる「自己肯定感」を培う基礎になるでしょう。大人からの一方的な「〇〇しなさい！」「はやく！」はほどほどに、自分で選ぶ力・考える力を育みたいものです。

（武田）